

軟水による高齢者の肌荒れ防止に関する研究

中島 滋¹⁾、佐々木信也¹⁾、矢野仁美²⁾、澄田道博³⁾、奥田拓道³⁾、大島 侑⁴⁾

1) 聖カタリナ女子大学、2) ガリヤ荘、
3) 愛媛大学医学部医化学第二、4) 大妻女子大学人間関係学部

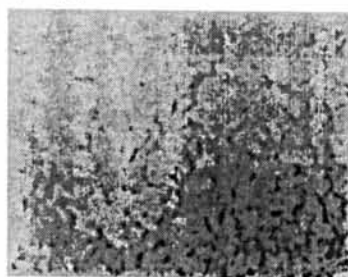
[目的]軟水には皮脂腺の活動を活発にして、皮脂を分泌させ皮脂膜の形成量を増加させる作用があることが知られている。したがって、軟水に皮膚を浸けると、その後の保水性が高まることが期待される。また、セッケンを用いて皮膚を洗浄する場合、軟水を使用すると金属セッケンの皮膜が形成されないため、皮膚の新陳代謝が活発になって細胞分裂が盛んにおこり、皮膚が生き生きするようになることも知られている。本研究は高齢者、特に肌荒れがおこりやすい、特殊入浴（以後、特浴とする）利用者を対象として、肌荒れ防止に対する軟水の有用性を検討することを目的とした。

[対象及び方法]愛媛県内の特別養護老人ホームにおいて特浴を利用している高齢者 15 名を対象者とした。入浴に軟水および水道水を使用した場合の、入浴前および入浴後の皮膚の水分量と体表温度を測定した。また、入浴に軟水を長期間使用した場合の上腕内側の角質層の変化を光学顕微鏡（500 倍）で観察した。体表温度は赤外温度計（KEYENCE 社製）、水分量は積水社製「Sittorisan」を用いて測定した。角質層は素肌チェッカー（カネボウ社製）を用いて採取した。

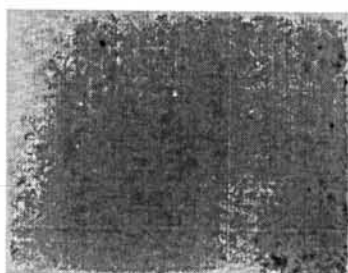
[結果]皮膚の水分量と体表温度は、入浴により上昇しその後徐々に減少したが、軟水を使用した場合の方が水道水を使用した場合よりも、入浴によるそれらの上昇割合が高く、その後のそれらの減少割合が低い傾向が観察された。入浴に軟水を長期間使用すると、剥離される角質層の量が増加するとともに、角質層パターンの均一性が増加した（図 1）。以上の結果より、入浴に軟水を用いると皮膚の保水性が高まり、皮膚が活性化される傾

向が認められた。

[考察]軟水は陽イオンを全てナトリウムに置換した水であり、前述したように、肌荒れ防止作用が期待されている。特別養護老人ホームでは、特浴利用者の入浴回数は一週間に 2 回が標準であるので、入浴を効率よく行い、肌荒れを防止する必要がある。入浴に軟水を使用して肌荒れを効率よく防止することは、特別養護老人ホームで特浴を利用している高齢者が快適で生き甲斐を持った生活を送るのに貢献できると考察される。さらに、軟水を用いると、介護職員の肌荒れ防止にも寄与して、職員の職場環境向上にも寄与するものと考えられる。現在、剥離した角質層の成分分析を行い、軟水の肌荒れ防止作用についてさらに検討を加えている。



軟水使用前



軟水使用后（4ヶ月）